

認定こども園の園庭における遊びの質を考える
—保育教諭がとらえた幼児の経験から—

The Quality of Children's Play in the Play Yard
at a Merged Children's Facility "Kodomoen":
An Analysis of Infants' Experiences as Observed by Nursery School Teachers

	石倉卓子	竹田好美
	ISHIKURA Takako	TAKEDA Yoshimi
岩城愛*	水島志穂子*	横田美咲**
IWAKI Ai	MIZUSHIMA Shihoko	YOKOTA Misaki

富山県内の幼保連携型認定こども園において、園庭での幼児の遊びにおける経験の内容を、保育教諭が実際に幼児の遊ぶ姿からとらえることを試みた。遊びの質を5領域の内容からとらえ、その遊びが行われた場に着目して考察した結果、幼児期の3年間にわたり指導する事項全53項目の内、29項目をとらえることができた。年間を通して、人間関係の領域の内容を筆頭に、健康、環境の領域にかかわる内容が多く挙げられた。遊び場は17か所に集約され、特に、感覚遊び、造形遊び、作った物を使用するごっこ遊び、全身を使った遊びなどができる泥山付近と、集団で鬼ごっこやボール遊び、雪遊びなどができるスペースが確保された園庭において、内容の項目やカウント数が顕著に表れた。当園においては、これらの遊び場を中心に様々な遊びが展開され、幼児期に育みたい力が培われていることが示唆された。

キーワード： 遊びの質と5領域 園庭 幼児 保育教諭 認定こども園

I 問題の所在と研究目的

園庭は屋上にあっても、代替地として公園で遊んでも、教育・保育の質は変わらないのか。ここ数年、本学3年次生と授業の中でディベートを通し、認定こども園が増える中での課題の一つとして議論している。

平成27年4月に子ども・子育て支援新制度が本格施行されてから、認定こども園は破竹の勢いで増え、平成30年4月1日現在で6,160園となり、平成26年度比で約4.5倍となっている(表1)。

* 幼保連携型同朋認定こども園保育教諭

** 元幼保連携型同朋認定こども園保育教諭

富山県においても、89園となり、平成26年度比で約3.2倍となった。また、今年度は、三つ巴の改訂（改定）がなされた要領・指針の施行元年でもあり、保育現場では多忙な中で研修を重ねつつ、変わってはいけないものと変わる必要があるものを確認しながら、日々、目の前の子どもとその保護者のために奔走し、今日も力強く専門職として邁進している。

現在、4年計画で認定こども園における遊びの質を保障する園庭環境について探っている。研究を始めた平成27年度に全国数か所の認定こども園を見学した折、幼保連携型認定こども園に移行した幼稚園の中で、子どもの人数の増加に伴い、園庭で遊ぶ時間をクラスごとに分けて設定している園、隣接したゲートボール場が園庭となり、広さの点では充実した反面死角があり、遊びの継続が難しいといった園など数々の現状を目にした。

また、日本政府の政策により、待機児童対策に伴って認定こども園の新設または既設の改築が推進されているが、土地の獲得が困難な場合もあり、園舎と同一敷地内又は隣接する位置に園庭を確保できないことがある。そこで、一定の要件を満たせば代替地や屋上の面積を算入できること、平成30年度には、園庭で十分な活動ができないおそれがある保育・幼児教育施設について、遠距離にある公園まで幼児を送迎する場合に、費用の一部を補助する政策を打ち出している。最近では、公園利用する際、近隣園同士の使用調整が必要になっているという声も耳にする。

これらの実態から、現状の認定こども園や、新設・移行されていく園における園庭での教育・保育の質については否応なく問われる状況にあると言えよう。園庭での教育・保育は必要ないのか、公園でよいのか、そうでなければ、どの程度保障されなければならないのであろうか。

近年、日本においても園庭に関する大規模調査が行われている。東京大学の発達保育実践政策学センターの2018年報告の質問紙調査によれば、園庭で子どもが経験できることについて、物理的環境が多様であれば子どもの経験も多様になる、砂場が特に多様な経験ができると推察される、とある¹⁾。また、宮本ら(2016)の場のとらえを参考に、戸外での保育の質を高める6観点の中で「志向性」（子どもの経験）についても調査研究を行う、との記述もある²⁾。

このように、園庭における子どもの経験について遊びの面から探る動きはあるが、保育現場における遊びを通じた教育・保育についての具体的な検証はまだ少ない。本研究では、保育教諭が実際の幼児の遊びの様子を細かくとらえ、幼児の経験について5領域の内容を対応させた記録を、研究者が遊びの場の観点から園庭の遊びの質をとらえることを試みる。

表1 認定こども園に関する状況について（内閣府子ども・子育て本部参照）

年度	認定こども園数	公私の内訳		類型別の内訳			
		公立	私立	幼保連携型	幼稚園型	保育所型	地方裁量型
平成26年	1,360	252	1,108	720	411	189	40
平成27年	2,836	554	2,282	1,930	525	328	53
平成28年	4,001	703	3,298	2,785	682	474	60
平成29年	5,081	852	4,229	3,618	807	592	64
平成30年	6,160	1,006	5,154	4,409	966	720	65

なお、本研究で整理、検討する内容は、4年計画の2年目にとった記録をもとにしている。本研究を通し、様々な保育現場の園庭での遊びの教育・保育について考える際の一助となればと考えている。

II 遊びの質と5領域について

遊びの質は保育の質と密接にかかわっており、OECD (2006) 「Starting Strong II」の保育の質の諸側面との関連でみるならば、構造の質やプロセスの質を問うことになる³⁾。

「質」という言葉には、そのものの良否・粗密・傾向などを決めることになる性質、物の本体、というような意があるが⁴⁾、厚生労働省による保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会(第6回)⁵⁾では、「保育の質」の概念について、「社会・文化における保育の機能や方向性の捉え方や価値づけに依存する相対的・多元的なもの、一元的に定義することができないもの」(秋田・箕輪・高櫻, 2007⁶⁾; 秋田・佐川, 2011⁷⁾等)、「子どもたちが心身ともに満たされ、豊かに生きていくことを支える環境や経験」(OECD, 2015)⁸⁾と紹介され、保育の質は、システム全体がうまく機能することによりもたらされる、としている。さらに、増田ら(2017)は、保育の質を向上させる保育内容について歴史的な背景から検討し、「質の向上には子どもを第一に考える保育者の取り組みが基盤となること」と結論付けている⁹⁾。幼児教育の質については、国立教育政策研究所(2017)が、幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究をまとめている¹⁰⁾。

それでは、遊びの質のとらえ方についてはどうであろうか。

遊びについては、大宮(2006)は、子ども時代における遊びは決定的に重要、とのノルウェー政府文書の一節を紹介しているが¹¹⁾、日本においては、幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標の一つにあるように、「乳幼児期における自発的な活動」であり、「心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習であること」を踏まえ、「遊びを通しての指導を中心としてねらいが総合的に達成されるよう」託されている。また、遊びは全身で物事に取り組み、我を忘れて活動に没頭することであり、子どもにとって遊びはそれ自体が目的である。河邊(2014)は、遊びの定義を「①自発性(自分からすること)」「②自己完結性(満足するまですること)」「③自己報酬性(「楽しい」という感覚など自分に報酬を与えること)」の3つに集約し¹²⁾、「遊びの質を見極めることを、ひとまず、能動的な学び手として必要な知識・スキル・ストラテジー・自己意識などの育ちを遊びの中に見出し、それをさらに伸ばしていくことと定義」している。「遊びの質の高まり」については、「能動的な学び手として育つプロセス」として提案した大宮ら(2014)の報告¹³⁾、中坪ら(2010)の、遊びの質の高まりをLaevers(2005)の幼児の「夢中度」に関する評価尺度に注目して分析した研究¹⁴⁾などがある。

さらに、浅木(2016)は、幼児教育・保育の質の向上について「遊び」を取り上げ、質的保育の上位に位置する北欧スウェーデンの幼児教育の事例から考察を行い、試験的に外遊びの環境設定や子どもの満足度等への取り組みについて、以下の10事項について考慮することを提案している。①どのような場や空間にするか、②どのような遊具や素材に出合うか、③取り組める時間はどれだけあるか、④主体的に活動できているか、⑤充実感を生みだされているか、⑥自分の力を発揮し、達成感を持っているか、⑦友だちと十分に過ごせているか、⑧自然と十分ふれあえているか、⑨動物、虫、植物に目を向け、木、土、水に親しんでいるか、⑩自然、生命の大切さを学んでいるか。そし

て、「遊びの質への評価基準を設定することは非常に困難ではあるが、遊びの質向上に役立つ基準作りはある程度必要であろう」と述べている¹⁵⁾。

ここで、幼児教育の質評価スケールとして比較的遊びの質をとらえるスケールとして近いものを挙げると、3歳以上の集団保育の質を測定するアメリカのECERS-3や、子どもたちの経験を豊かにするための保育者の関わりに重きを置いたイギリスのSSTEW（2～5歳児対象）がある。いずれも段階をつけて評定を行い、点数化するタイプのスケールである。また、山下（2018）は、秋田らの質研究について、「保育を『専門性を有する営み』としてとらえ、専門家である保育者によって行われる保育実践の内容を質として問う」こと、「我が国における保育の質の定義が明確でないことから、保育の質の測定項目は、その項目を作成した者が考える保育の質を測定することになり、保育の質の向上に結び付くとは限らないとも述べている」ことに触れているように¹⁶⁾、元来、質をとらえる項目作成については難題であることがわかる。ただ、「埋橋は、ECERS-3の日本における可能性について、保育の質の数値化を手掛かりとして、保育者間で話し合うことで共通認識が生じ、質の向上に向けて具体的な目標を設定できるとし、『環境を通しての教育』を分節的に認識し、段階的に質の向上を行うことになると述べている」ことにも触れ¹⁷⁾、海外のスケールを適切に使用することで日本の質研究の方途が拓ける可能性についても述べている。いずれにしても、無藤・内田（2016）が述べているように、標準化された評価指標は、その特徴を理解し使い方を誤らないようにすることが必要である¹⁸⁾。

このように、保育評価スケールや遊びの質については「質の高さ」を評価するものがほとんどであり、遊びの質そのものを確認し、とらえる、という考え方はなかなか見当たらない。

そこで、本研究では、前述した様々な考え方を参考に、遊びの質を「遊びを支える環境や経験」としてとらえることとし、遊びの質の中の経験をとらえる方法として、ねらいを達成するために指導する事項でもあり園児の発達を見る側面でもある5領域の各内容を用いることとした。なお、最終的には保育現場に活かせる研究とすることが目標であるため、研究者と保育実践者の共通認識できるツールであることも選定理由の一つである。本来、領域の内容はねらいを達成するために指導する事項であるが、本研究では、幼児が環境との相互作用の中で生みだす、または生まれる遊びの様子をとらえ、5領域の内容を対比させることを試みる。

なお、領域における内容を一種のスケールととらえることにはなるが、数値化することが目的ではなく、あくまでも園庭に内在する遊びの質の傾向性をとらえる手段として考える。そして、「遊びの質とは絶対的尺度をもって測定可能なものではなく、遊ぶことによって、一人ひとりの子どもがより能動的な学び手として育つことを可能にするようなプロセスの問題として捉えること」「どのように人やモノにかかわって遊びを変化させていくかをつぶさに読み取ることが、質の評価につながると思われる」「保育者の意識と環境構成の関係や、そのことによる子どもの遊びの変化を解明することによって、より詳細な遊びの質の観点が導き出されるものと思われる」「遊びの質を読み取る一つの視点は、遊びにおける自己課題（遊び課題とする）が、人やモノとのかかわりの中で、どのような関係をもって生み出され、自己充実感につながっているかを読み取ることである」¹⁹⁾との考え方を踏まえて研究を進めていきたい。幼児教育の質を高めるという命題が下っている昨今、まずは遊びの質そのものをとらえ、それを保障していくことは、幼児教育の質を確保し向上させることにつながると思う。

Ⅲ 研究方法

富山県の幼保連携型同朋認定こども園（以後、協力園）の幼稚園部に所属する 3, 4, 5 歳児の担任保育教諭各 1 名に協力を得ることとし、選定は理事長に一任した。保育教諭経験年数は、3 歳児担任が 3 年目、4 歳児担任が 5 年目、5 歳児担任が 7 年目であった。

平成 28 年度の 4～5 月、6～8 月、9～11 月、12～3 月の記録用紙（A4 判）をあらかじめ 3 名の保育教諭に渡し、記入例（表 2）をもとに各期にみられる遊びを可能な範囲で随時筆記記録するようお願いした。平成 27 年度 12～3 月から記録を行っていたが、各学年の担任が年間通して同一である条件を選び、平成 28 年度の記録を使用することとした。

記入場面は、午前中の自由な遊びの時間とし、遊びの場や遊びの事例（幼児の言動、使用した道具や遊具も記入）、1 つのまとまりをもつ遊びの事例につき、主な 5 領域関連内容を記すをお願いした。その際、場については協力園の園庭概略図の番号と対応させることとし（図 1）、領域関連内容は、平成 26 年告示の幼保連携型認定こども園教育・保育要領の内容の番号と関連する文言を記載してもらうこととした。記録用紙は 5, 8, 11, 3 月に訪問回収することとした。

表 2 記録記入例の一部

場	事例（どのように遊んでいたか）	主な 5 領域関連の内容
⑧鉄棒付近	・鉄棒の隅で男児 2 人、戦いごっこをしている。	人 (7) 一緒に活動する楽しさ

1. 協力園の概要と園庭環境

協力園は、類型で多数を占める私立の幼保連携型認定こども園とした（表 2）。協力園は、大正 11 年に創立した幼稚園と、平成 23 年 4 月に設立した保育所を一体化し、移行した。園の教育目標は「遊びに夢中になれる環境をつくり、その中で先生や友だちと十分に遊び込み、共に育ち合っている教育（共育）」である。晴れ間があれば少しでも園庭で遊べるような教育・保育方針をもつ。それゆえ、園庭の砂土、草花、木々、遊具、道具など、園庭の環境を常に考え、整備している。0, 1, 2 歳児対象の保育所と幼稚園は離れており、歩いて 5 分程度である。保育所には乳児用の園庭があるが、時々幼稚園の園庭を利用することもある。幼稚園の園庭の面積は 1, 029 m²である。8:30 から登園した幼児は順次好きな遊びを行い 10:00 にはクラスの活動に移ることとなっているが、遊びの様子を見極め、臨機応変に対応している。なお、協力園は園庭概略図を作成し、園庭の環境構成と援助についての留意点を共通理解するよう努力している（図 1）。

2. 倫理的配慮

協力園の理事長の承諾を得て、保護者全員の同意書をいただいた。また、本論文を事前に見ただけ HP 公開の同意を得た。

Ⅳ 結果と考察

本章では、協力園の担任保育教諭がとらえた遊び場と遊びの様子、その遊びに主に対応する 5 領域の内容について筆記記録したものを、できるだけそのままの表現で転記し、場や遊びとその経験の内容の関連を考察した。ただ、記載内容についてはわかりやすくする意図で若干の修正を行っ

た。なお、主に対応する5領域の内容の欄において、番号のみの記載の場合は、想定される文言を括弧書きで補足することとした。遊び場の記号や番号は、図1の園庭概略図に対応している。

また、記録をとる過程で、保育教諭との記録内容の共通認識を図るため4~5月の記録についてディスカッションしたり、保育教諭が幼児の遊びの経験をどのようにとらえ、内容を選んでいるのか等を研究者が理解するため、研究者の撮影した7月の園庭での遊びの動画を撮影当日に観る機会をもったりした。なお、4歳児担任の12~3月については記録回収ができなかったため、平成28年2月に現5歳児担任が同形式で記録した内容を記載することとした。期については、いずれ園の年間カリキュラムの改善につなげられるよう、4~5月をI期、6~8月をII期、9~11月をIII期、12~3月をIV期として整理した。



図1 協力園作成の園庭概略図 (園庭面積: 1,029 m²)

※左手が園舎、右手が南側。観察時、鉄棒は⑮と、②とBの間、ステージがEと塀の間の木の下、Bと④の間に太鼓橋、④の西側にスピンジムが配されていた。なお、スピンジムはIV期から配された (図2~4参照)。



図2 協力園 園庭画像1 (左奥におたまじゃくしシーソー, 右奥に赤いおうち)



図3 協力園 園庭画像1 (中央奥が冒険の丘, 右手にわんぱくジャングルジム)



図4 協力園 園庭画像1 (左端にとりで, 中央に黄色いおうち, 右端に鉄棒)

1. 4~5月〔I期〕の遊びの様子と5領域の内容

表3 泥山での遊び(D)〔I期〕

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
3歳児	D 泥山	<p>5歳児が使っていた場所で,3歳児のみ約20名で泥遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・裸足になって泥山を登る ・泥山の頂上から水を流す ・すべり台にして滑って遊ぶ <p>「すべるー!」「ヌルヌルだよ!」「気持ちいい」</p>	<p>人 (1)</p> <p>環 (2)</p> <p>環 (1)</p>	<p>友達によさに気付き,一緒に活動する楽しさを味わう。</p> <p>物の性質に興味や関心を持つ。</p> <p>自然に触れて生活し,不思議さに気付く。</p>

4 歳 児	D 泥山	5 歳児が泥山でシャベルを使って穴を掘ったり水をかけたりしているのを見ている。5 歳児はそのまま滑り台を作って滑っている。 (中心側：5 歳児,道路側：4 歳児)	人 (8)	友達と共通の目的を見出す。
	D 泥山 (道路側)	上記の様子をしばらく見ていた 4 歳児は,5 歳児がしていることを真似して,シャベルで穴を掘ったりジョウロで水をかけたりして滑る遊びを繰り返した。	人 (7) 人 (8) 人(10)	友達のよさに気づき,一緒に活動する楽しさを味わう。 友達と共通の目的を見出し, 工夫したり協力したりする。 友達とのかかわりを深める。
	D 泥山 (奥の道路側)	水を使わずに遊ぼうと言うと,硬い泥山をシャベルでひたすら削り,「工事中です」と遊びが始まった。削って泥山を崩していき,穴を掘っている。	言 (2)	自分なりに言葉で表現する。
4 歳 児	D 泥山 (⑩ はんとう棒の近く)	サラサラとした泥を握って,手からこぼす。白い粉が舞う様子を眺めている。子どもたちは「魔法の粉だー!」と言っている。	環 (1) 環 (2)	自然に触れて生活し,不思議さに気付く。 物の性質に興味や関心を持つ。
5 歳 児	D 泥山 (道路側)	ゲート付近にあるきめの細かい砂(泥)をカップに入れて集めている。それを自分で作った泥団子にまぶしたり,カレーライス作りに使ったりしている。	人 (8) 環 (2)	友達と共通の目的を見出し, 工夫したり協力したりする。 物の性質に興味や関心を持つ。
5 歳 児	D 泥山	小さいバケツの中で泥を細かく砕き,水を加えながら手でまぜる。「水入れすぎたー!とろとろなったー!」と言って,泥を足してちょうどよい硬さにしていた。	人 (8)	友達と共通の目的を見出し, 工夫したり協力したりする。
		自分の手の大きさに合った泥団子をたくさん作って,お皿に並べていた。	環 (2)	物の性質に興味や関心を持つ。
5 歳 児	D 泥山と E 砂場近く, ⑩ 黄色いおうち	フライパンや鍋,しゃもじでトロトロのカレーを作っていた。水をたっぷりとかえたり,ザルに入っている葉っぱを具として入れたり工夫していた。粒の粗い砂を見つけ,ご飯に見立ててお皿に盛り付けていた。	人 (8) 環 (2)	友達と共通の目的を見出し, 工夫したり協力したりする。 物の性質に興味や関心を持つ。

表4 砂場や砂場周辺での遊び (E 付近) [I 期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
3 歳 児	E 砂場	シャベルでお山を作り,スコップの面でペタペタと固める。	環 (1)	自然に触れて生活する。
		フルーツや魚などの型に砂を入れ,「バナナケーキ」「たいやき」などと言う。それを板にひっくり返し,プラスチックの型で型抜きする子,それを見て真似する子もいる(前日雨だったため崩れにくくなっている)。	人 (7) 環 (2)	友達のよさに気付き,一緒に活動する楽しさを味わう。 物の性質に興味や関心を持つ。
3 歳 児	E 砂場周辺	・木の机でケーキやさんをしている。カップや型に砂や硬めの緑色をした落ち葉を入れた物をいくつか作っている。	環 (1) 環 (4)	自然に触れて生活する。 自然を取り入れて遊ぶ。
		・男児が赤いテーブルで,皿やフライパンに砂を入れ,おたまや泡立て器で混ぜる等,ままごとをしている。		
		・4歳児が泥まみれになって遊んでいるのを,少し離れたところから見ている。 ・5歳児に交じって,サンダルを履き,泥のすべり台などで泥遊びをする子が何人かいる。そのうちの一人,K男には同園に兄がいる。	健 (3)	進んで戸外で遊ぶ。
4 歳 児	E 砂山と 近くのテ ーブル	フライパンにシャベルで砂を入れる女児。男児が水を入れて「ホットケーキ作ろう」と言う。女児もホットケーキ作りを始める。	人 (8) 言 (8)	友達と共通の目的を見出し, 工夫したり協力したりする。 体験を通じてイメージや言葉 を豊かにする。

表5 プランターや花壇付近の遊び (F 付近) [I 期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
5 歳 児	F プラン ターや花 壇のある ところ	プランターを動かしたり,石や丸太を転がしたりして虫を探している。自分男観察ケースに捕まえた虫を入れて観察したり,お世話をしたりしている。虫が苦手な子どももダンゴムシなら進んで触れる。	人 (7) 環 (5)	友達のよさに気付き,一緒に活動する楽しさを味わう。 身近な動物に親しみをもち, 生命の尊さに気付き,大切に する。

表6 おたまじゃくしシーソー (固定遊具) での遊び (②) [I 期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
5 歳 児	②おたま じゃくし シーソー	5歳児だけで楽しんだり,4歳児や3歳児と一緒に乗ったりしている。小さい友達が乗るときは揺らす強さを考えて揺らしていた。	人 (7) 人 (10)	友達のよさに気付き,一緒に活動する楽しさを味わう。 思いやりを持つ。

表7 赤いおうち (⑤付近) [I期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
3歳児	⑤赤いおうち	A児「先生！見て！むし！！」担任「本当だー！てんとう虫だー！」A児「ほら！てんとう虫いるよー！」と近くの子どもに言う。子どもたちは、木の上にいたてんとう虫をじーっと見ている。	言 (1) 表 (3)	保育教諭や友達の言葉や話に興味や関心を持ち、親しみを持って聞いたり、話したりする。 様々な出来事の中で感動したことを伝え合う楽しさを味わう。



図5 協力園（幼稚園部の園庭）の粘土質の泥山コーナー
(平成28年5月31日撮影)

2. 6~8月 [II期] の遊びの様子と5領域の内容

表8 泥山での遊び (D) [II期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
3歳児	D泥山 (晴天が続いたある日)	・シャベルで掘ったり削ったりしている。 ・泥山の割れ目に手やシャベルを入れ、泥を掘って泥の塊を取っている。	健 (3) 環 (4)	進んで戸外で遊ぶ。 自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。
3歳児 ・5歳児	D泥山 (雨天の翌日)	5歳児女児4~5人が、A教諭に「先生、さらさらの粉、どこにあるの？」と聞きに来た。A教諭は(雨が降り、粉が変化したことに気付いて欲しくて)「いつものところがないの？なんでかな？」というところと3歳児男児が「きのう雨降ったからぬれているんだよ！」と	健 (1) 人 (1) 人 (2) 環 (1)	保育教諭等や友達と安心感を持って行動 共に過ごす喜び 自分で考えて行動 自然の不思議さに気付く。

		言った。すると、女兒は「あ！」と言って友達のいる泥山まで走っていき、「ねーねー！きのう雨降ったからさらさらの粉ないんだよ！」と話した。「あ〜！」と気付いたような表情の女兒や、すでにわかっているという表情の女兒がいた。	人 (6) 人 (7)	思いを相手に伝える, 思いに気付く。 友達のよさに気付く。
4 歳 児	D 泥山	泥山が乾燥して、さらさらの細かい粉を集めてまいている子どもがいる。	表 (1)	生活の中で手触りなどに気付いたり感じたりする。

表 9 植物の生えている際の塀や建物のそばでの遊び (A, E, ⑫付近) [I 期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する 5 領域の内容	
4 歳 児	E⑫ 草花のあ る塀近く	虫探しをしている男児がダンゴムシを見つけ、そのうちカタツムリも見つけて捕まえる。	環 (5) 環 (1)	身近な動植物に親しみを持って接する。 自然に触れて生活し、不思議さなどに気付く。
	A 畑周辺	畑の草や葉っぱの間にカエルがいて、それを捕まえる子どもがいる。		
5 歳 児	⑫の後ろ 塀づたい A 畑周辺	ダンゴムシ、ナメクジ、カタツムリ、カエルを捕まえている。	環 (5)	身近な動植物に親しみを持って接し、いたわったり、大切にしたりする。

表 10 足洗い場・テラス付近の広場での遊び (⑬, B, F 付近) [II 期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する 5 領域の内容	
4 歳 児	⑬ 足洗い場 付近	・ B 教諭がたらいを出して並べ、水をため、そこに子どもたちと作った浮くおもちゃを浮かべて遊ぶ。	表 (5)	いろいろな素材に親しみ工夫して遊ぶ。 友達と楽しく活動する中で共通の目的を見出す。
		・ 片付けの際、おもちゃを木の机に並べると、並べる遊びになり、お店屋さんごっこになっていった。	人 (8)	
5 歳 児	BF ほしぐみ テラス前	登園した子どもから、水鉄砲でねらう的を作った。その的を外の太鼓橋に吊るしたり、ミニテーブルの上にプラスチックカップを並べたりして、水鉄砲でねらった。	健 (3) 健 (7)	進んで戸外で遊ぶ。 身の回りを清潔にし、衣類の着脱などの生活に必要な活動を自分でする。
		蛇口からホースをつなぐのに適当な距離のところに、ミニテーブルを 3 つ程出して、ジャブジャブして遊んだり、友達とかけ合ったりして遊んでいる。そばにテントを立てた。		
		たらいの中におもちゃの魚と水を入れてすくって遊ぶ。		

表 11 遊具での遊び (赤いおうち, ジャングルジム, 鉄棒) (④, ⑥, ⑧付近) [Ⅱ期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
4 歳 児	④赤いお うち⑥ジ ャング ルジ ム	暑い中でも赤いおうちの階段やジャングルジムを上がったり,短時間走ったりして体をいっぱい動かしている。	健 (2)	いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。
5 歳 児	⑧鉄棒	暑い日に鉄棒をしようとした子どもが,「熱い!」と言いながら挑戦している。	健 (3) 環 (4)	進んで戸外で遊ぶ。 自然などの身近な事象に関心を持つ。
	⑥ジャン グルジ ム	・上まで登って「おーい!」と友達に声をかける。 ・ジャングルジムを秘密基地にして,中に隠れている。 ・上から下の砂場へジャンプして遊ぶ。 ・横についている縄を握って登る。	健 (3)	進んで戸外で遊ぶ。



図 6 協力園 (幼稚園部の園庭) での水遊びの様子
(平成 28 年 7 月 19 日撮影)

3. 9月~11月 [Ⅲ期] の遊びの様子と5領域の内容

表 12 泥山での遊び (D 付近) [Ⅲ期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
4 歳 児	D 泥山の てっぺん	泥を削って,フライパンに入れる。水を混ぜて,とにかく混ぜ続ける。近くの友達もその遊びに入って,泥を入れる子,シャベルで混ぜる子がいた。	環 ねらい (1) 人(7)	身近な環境に親しみ,自然と 触れ合う中で様々な事象に 興味や関心を持つ。 友達のよさに気付き,一緒に 活動する楽しさを味わう。

		次の日は、同じ場所で同じ用具を出し、昨日の遊びの続きを始める。トロトロとした感触や見た目から「カレーだよ！」と言って、またシャベルでかきまぜる。	表 ねらい (2)	感じたこと、考えたことを自分なりに表現して楽しむ。
5 歳 児	D 泥山	桜の葉っぱをよく拾っていたので、「はっぱを載せたケーキを作ろう！」と提案すると喜んで作っていた。 透明カップに土の層が見えるように様々な土を順に入れていた。スポンジケーキや、クリームは泥(泥山の泥、黒土、黄色っぽい土)で見立てていた。葉っぱはそのまま飾ったり、ちぎったりしていた。どんぐりも拾って飾っていた。泡立て器、シャベル、ボウル、スプーン、お皿、ザルなどを使用していた。	環(4) 環(7) 表(1)	(自然などの身近な事象に関心を持ち、取り入れる) (身近な遊具や道具に興味を持ってかかわり、考えたり、試したりして工夫する) (様々な色、形、手触りに気付き、感じる)

表 13 砂場や砂場周辺での遊び (E 付近) [Ⅲ期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する 5 領域の内容	
3 歳 児	E 砂場の 近く 木の下	(ままごと、コーヒー作り) A「あ!どんぐり!」 B「え?見せて!」 A の近くへ行き、どんぐりを見る→下を見て探す。 B「あつー!見て見て!」その後、どんぐりをカップや皿に集める、スモッグのポケットに入れる、どんぐりを割ろうとする、プリンカップや皿に泥を入れてドングリを上に乗せ、カップケーキ、ケーキ、ピザ作りをする。また、泥団子の中にドングリを入れる、ドングリの表面に泥をコーティングする。	環(1) 環(4) 言(3)	自然に触れて生活する。 自然に関心を持ち、取り入れて遊ぶ。 したいこと、してほしいことを言葉で表現する。

表 14 桜の木の下での遊び (②付近) [Ⅲ期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する 5 領域の内容	
3 歳 児	②おたま じゃくし シーソー 付近	桜の木の下周辺に落ちている葉っぱや、門の近くのイチョウの葉を拾っている。たくさん拾って台の上に置いたり、「あかいろのはっぱ!」と言いながらきれいな色の葉を拾ったり、上からひらひら落として「おもしろーい!」「見てー!」と言ったり、フライパンに砂・泥・水・葉を入れて(細かくちぎって入れる子も)カレーらしきものを作ったり、葉に泥を載せて柏餅のように挟んだりしている。	環(3) 人(1) 表(2)	季節により自然に変化のあることに気付く。 友達と共に過ごすことの喜びを味わう。 感じたこと、考えたことを自分なりに表現して楽しむ。

表 15 冒険の丘での遊び (⑤付近) [Ⅲ期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
3歳児	⑤冒険の丘	(おさんぽ?) 城山の石の階段を上ったり下りたりする。雨上がりだったため、(滑りそうで)「下りられない」という女児がいた。その子を下そうと担任が行くと、周りの子どもたちも一緒に上って下りてきた。	人(1)	保育教諭等や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。

表 16 植物の生えている際の塀やステージ, 建物のそばでの遊び (E④付近) [Ⅲ期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
4歳児	ステージEの木の 下辺り	仲良しグループの女児 4,5 人が、ままごと遊びを始める。皿, カップ, 鍋などの用具をたくさん並べている。主に砂場の砂を使って、水, 葉っぱ, ドングリを混ぜて、ゼリーやアイスを作っていた。	人(1) 人(5) 人(7) 人(8) 環(4)	(保育教諭や友達と共に過ごすことの喜びを味わう) (友達と積極的にかかわる) (友達のよさに気付く) (共通の目的を見出す) (自然などの身近な事象に関心を持ち, 取り入れる)
	④赤いおうち	次の日は、場所を変えて同じようなままごと遊びが始まった。	人(9) 人(7)	(よいことや悪いことがあることに気付く) (友達のよさに気付き, 一緒に活動する楽しさを味わう)

表 17 テラス付近での遊び (①付近) [Ⅲ期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
5歳児	①テラス 職員室側	カブトムシの卵から見ていたので、土を替えるときに幼虫を出してみると、すごく大きくなっていてびっくりしていた。	環(1) 環(5)	(自然に触れて生活し, 不思議さなどに気付く) (身近な動植物に親しみをもって接し, 生命の尊さに気付き, いたわったり, 大切にしたりする)

表 18 固定遊具の遊び (⑮, ⑯) [Ⅲ期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
5歳児	⑮鉄棒	逆上がりができるように何度もチャレンジしていた。できる友達を呼んできて、「すごい! もう一回して!」と目標にしたり、「頑張る!」と言って挑戦したりしていた。	環(7) 人(4)	(身近な遊具や道具に興味を持ってかかわり, 考えたり, 試したりして工夫する) (いろいろな遊びを楽しむ)

				ながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ) (共通の目的を見出し,工夫したり,協力したりする)
5歳児	⑥わんぱくジャングルジム	・上まで登って顔を出したり,「やっほー!」と友達を呼んだりしている(中が隠れ家になっている)。 ・網で上まで登ったり,のぼり棒で登ったり,自分たちのできるところを判断して登っている。	環(7) 人(4) 人(8)	(身近な遊具や道具に興味を持ってかかわり,考えたり,試したりして工夫する) (物事をやり遂げようとする気持ちを持つ) (共通の目的を見出し,工夫したり,協力したりする)

表 19 園庭全体での遊び〔Ⅲ期〕

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
3歳児	園庭全体 遊具の辺りまで	(鬼ごっこやかけっこ) A「鬼ごっこしよう!」担任「誰とする?」A「Bちゃんと,Cくんと・・・」このやり取りの間に,他の子が「なにするん?ぼくも入れて!」と参加してくる。 担任が鬼になる時もあるし,じゃんけんで子どもが鬼になる時もある。「〇ちゃん鬼なら,私も鬼する」と言う子もいる。鬼ごっこを見て,他の子が「わたしもする!」と参加してくることもある。	人(5) 健(2) 健(3)	友達と積極的に関わって,喜びを共感し合う。 遊びの中で十分に身体を動かす。 進んで戸外で遊ぶ。
4歳児	園庭の広い場所 (まっすぐ)	<10月～> (運動会のことを思い出して)かけっこをする。	健 ねらい (2)	自分の体を十分に動かし,進んで運動しようとする。
5歳児	(園庭:直線スペース)	運動会に向けて,たくさん走った。30mを7秒で走れるようにたくさん走り込んだり,友だちのことを応援したりしていた。	健(2)	(いろいろな遊びの中で十分に体を動かす)

4. 12月～3月〔Ⅳ期〕の遊びの様子と5領域の内容

表 20 泥山での遊び(D付近)〔Ⅳ期〕

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
5歳児	D泥山 (積雪時)	泥山に積もった雪にお尻を付けて滑っていた。担任がソリを出すと喜んでずっと滑っていた。	健(2) 健(3) 人(8)	(遊びの中で十分に身体を動かす) (進んで戸外で遊ぶ) (友達と楽しく活動する中で共通の目的を見出す)

表 21 植物の生えている際の塀や建物のそばでの遊び (A②付近) [IV期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
4歳児	A②辺りの丸太の辺り	丸太を転がしながら、「虫いないなー」「冬だから寝てるのかな?」「春になったら出てくるわ」「待ってよう!」	人(8) 環(3)	(友達と楽しく活動する中で共通の目的を見出す) (季節により自然に変化のあることに気付く)
5歳児	A②プラントナー付近	「ミミズ見つけたー!」「たくさんいたね!」と言って喜んで探していた。	環(1) 人(7)	(自然に触れて生活し,不思議さなどに気付く) (友達によさに気付き,一緒に活動する楽しさを味わう)

表 22 テラス付近の遊び (㊸付近) [IV期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
3歳児	㊸園舎のろけっと組の辺り	(春の自然を探す) チューリップの葉を見つける。部屋でゲームをしており,その延長線で,保育教諭がチューリップの絵を描いたものを見せ,「外で探そう!」というゲームをした。すると,「あ,あったー!」「なんの花?」「チューリップだよー!」などと言う。「どうしてチューリップってわかったの?」と聞くと,「だってこの前,ここにチューリップ咲いてた!」と昨年春のことを思い出して言っていた。	言(2)	見たり,考えたりしたことを言葉で表現する。

表 23 固定遊具やその周辺での遊び (②③④⑤⑥⑦⑮付近) [IV期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
3歳児	③機関車ジム辺り	(春の自然を探す) <3月> 桜のつぼみを見る。下から,「これ桜のつぼみだよー!」と言う子,機関車ジムの一番高い所に上って木の枝の近くに行く子,「先生みてー!」「桜(の木),さわられるよー!」と言う子どももいる。	環(3)	(季節により自然に変化のあることに気付く)
4歳児	② ⑥ ⑤	おたまじゃくしシーソー ・「ゆれるー!」「もうちょっとゆっくりにして!」 わんぱくジャングルジム ・「かくれがにしようぜ!」「秘密基地にしようぜ!」 冒険の丘 ・「みんなで滑ろう!」雪の時も普通に遊んでいるときもある。	人(11)	(友達と楽しく生活する中でできまりの大切さに気付き,守ろうとする)

5 歳 児	⑥	わんぱくジャングルジム,スピンジム,ネットのおや ま,おたまじゃくしソーソー,鉄棒など,自分たちの好 きな遊具を選んで遊んでいた。遊び方もわかっている ため,スピンジムはとても上手にクルクルと下りてい た。	健(2)	(遊びの中で十分に身体を 動かす)
	④の手前		健(3)	(進んで戸外で遊ぶ)
	⑦		人	(協同の遊具や用具を大切 にし,みんなで使う)
	②		(12)	

表 24 黄色のおうちでの遊び (⑩付近) [IV期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
4 歳 児	⑩黄色い おうち	黄色いおうちに集まってチョコレートづくり。鍋, シャベル,カップ,泡立て器を使いながら,「○ちゃん, 水持ってきて!」「えー,△ちゃん持ってきてよ」「ト ロトロになったねー,おいしそう」	人(8)	(友達と楽しく活動する中 で共通の目的を見出し,工夫 したり,協力したりする)

表 25 園庭全体での遊び [IV期]

	遊び場	遊びの様子	主に対応する5領域の内容	
3 歳 児	園庭全体	(雪遊び,氷で遊ぶ) ・雪がたくさん積もった日,スキーウェアを着て,はり きって外に出て,仲良しの友達と,雪を触る,手で丸め る,雪だるまを作る,雪玉を投げる,お山を作る。 ・「冷たいー!」「ゆき,フワフワだねー!」「雪玉つ くろー」と言ったり,寝そべって,「先生見てー!」と 言ったりしている。 ・水たまりが凍って,氷になっていた。幼児が手で少し 取ってみる!また,氷を集めて赤いテーブルの上に並 べてみる!タイヤの中の氷を発見する子もいる。	環(3) 人(5)	季節により自然に変化のあ ることに気付く。 友達と積極的に関わって,喜 びを共感し合う。
	園舎側の 直線ライ ン	晴れた日,少し肌寒い日に,子どもたちが「よーい,ど ん!」と自分たちで合図して,何回か繰り返し走って遊 んでいた。「よーい,どんぐり!」「よーいどんぶり! 」など,以前見た年中・年長児の言葉を真似て,遊んで いる姿もみられた。	健(2)	(遊びの中で十分に身体を 動かす)
	園庭全体 ・冒険の 丘など高 い場所は バリアの 場所にな	「おにごっこしよう!」「ジャンケンポン!」でお にごっこをする。保育者に,「おにごっこしよう!」と 言う子がいる。「○ちゃんと先生と,他にもする子い るか?」と担任が言うと,近くにいた子どもに「する?」 と聞く子もいた。また,おにごっこをしているうちに, 「いーれーて!」と途中参加する子どももたくさんい た。「けいさつごっこ」「かくれんぼ」をしたいとい	人(1) 人(2) 言(3)	(保育教諭や友達と共に過 ごすことの喜びを味わう) (自分で考え,自分で行動す る) したいこと,してほしいこと を言葉で表現する。

	っている (暗黙の ルール)	う子どももいたが、「どうするー？何する？」と担任が聞くと、それぞれ「～したいー」とまとまらない。「じゃんけんで決めようか？」「けいさつごっこの次にかくれんぼしようか？」などと提案すると「うん！」とまとまった。		
4 歳 児	園庭全体 (タイヤ の中, 水 たまり, 泥山)	・園庭中を走り回って、氷を探している。「見つけたー！先生みてみてー！」「氷入れる物ちょーだい！」、水たまりにできた氷を踏んで「わー！バリバリ！」と言う。泥山の霜柱も見つける。 ・「雪だるまつくろー！転がすね！」「先生！大きすぎて顔のせれんー！のせて！」 ・「先生！かまくら作ろう！穴掘って！」「できた！写真とってー！」	人(8) 環(1)	友達と一緒に活動する楽しさ 冬ならではの自然と触れ合う。
		・シャリシャリの氷を透明なカップに入れて食紅でシロップを作りかき氷を作る。「おいしそう！私もやりたい！」「できた！園長先生いちご味ありますよー！」「レモンもできたー！食べられそうだね」 ・シャリシャリの氷が溶けて色水になった。「わー！水になっとる！なんで！？」「とけたんだよー！」「色混ぜてみよう！」「全部混ぜたら抹茶になった」「いろんな色できた！今度はジュースや！」	表(5) 環(4) 表(3) 人(8)	いろいろな素材に親しむ。 身近な事象に関心をもつ。 感動したことを伝えあう。 友達と一緒に活動する楽しさ
	園庭全体	ろけっとぐみの男の子がほとんど集まってジャンケン！「〇〇,オニやー！逃げろー！」「タッチしたのに・・・(泣)」「ごめんね」「いいよ」寒さに負けず,元気いっぱい！ とりあえず走る！「あー！つかれたー」「でもぼかぼかだ」 白線を引いて,みんなでボール遊び。「ドッチボールしよう！」「やったー！色チームと白チームに分かれよう」「よーい,スタート！」「当たったー,悔しい(泣)」「もう一回したいな！」	人 (11) 健(2) 健(2) 人 (11)	きまりを守って楽しむ。 (遊びの中で十分に身体を動かす) (遊びの中で十分に身体を動かす) (遊びの中で十分に身体を動かす) (きまりの大切さに気付き,守ろうとする)
5 歳 児	園庭全体 (積雪時)	・女の子3人で雪だるまを作っていた。体の方ではできたが,顔の部分は重くて持てない。「先生,持って！」担任が「3人でせーの！でやってみて！」と言うが,「せーの！・・・無理！」と言う。今度は「4人で持とうか！・・・できた！」この後,周りに落ちている木の枝や石で目や鼻の飾り付けをしていた。	健(2) 健(3) 人(8)	(遊びの中で十分に身体を動かす) (進んで戸外で遊ぶ) (友達と楽しく活動する中で共通の目的を見出す)

	<ul style="list-style-type: none"> ・雪玉を作って雪合戦をしていた。顔に当たって怒る子どももいたが、最終的に喜んでいて。 ・雪の中, 走りにくいのがまた楽しくて, ずっと走っていた。 		
園庭全体 晴れた日	<ul style="list-style-type: none"> ・氷鬼, バナナ鬼, 鬼ごっこなど, 毎回目替わりで鬼ごっこをしていた。 ・友達を誘って「だるまさんがころんだ」をしていた。中にはルールがわからない子どももいたので担任も入りながら遊んだ。 	人(5) 人(1) 人(8) 健(2) 健(3)	(友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感) (保育教諭や友達と共に過ごすことの喜びを味わう) (友達と楽しく活動する中で共通の目的を見出す) (遊びの中で十分に身体を動かす) (進んで戸外で遊ぶ)

遊び場の種別やまとまりを検討し, 表 3~25 のように整理した。協力園の園庭では, 「D 泥山」「E 砂場」「DE⑩黄色いおうち付近」「F⑬プランターや花壇」「②③桜の木の下」「②おたまじゃくしソー」「④赤いおうち付近」「④付近スピンジム」「⑤冒険の丘」「⑥わんぱくジャングルジム」「⑦ネットのおやま」「⑩黄色いおうち付近」「AE⑫, E④, A②植物が生えている塀や建物やステージのそば, A 畑」「①⑬BF 足洗い場とテラス付近」「⑮鉄棒」「園庭全体」「園庭(直線スペース)」の 17 箇所にはほぼ集約された。場の中には撮影されていない間に遊びの前後でつながっているものや, 保育教諭の意図で使用した場もあると考えられるが, 幼児が遊びを行う上で必要とした場を大まかにとらえることができたのではないと思われる。

また, 泥山での経験内容が最も多く挙げられた時期は 4~5 月〔I 期〕, 園庭全体での経験内容が最も多い時期は 12~3 月〔IV 期〕であった。6~8 月〔II 期〕には足洗い場, 9~11 月〔III 期〕には桜の木の下など, 季節に応じた場の使用特徴も見られた。固定遊具については全ての期において平均的に記録される結果となった。

これらの結果について, 次項では領域における経験の内容と場の関係について考察する。

5. 遊びの場における経験の内容

回収した用紙には, 保育教諭自身が当初の計画と変更した期の期間が記されており, 3 歳児は II 期が 7~8 月, 4 歳児は III 期が 10~11 月, 5 歳児は IV 期が 1~3 月との修正があったが, 計画時点の期の範囲に含まれることから, 当初の期間での経験内容として扱い, 表にまとめた。

ここでは, 遊びの質を数値化することが目的ではなく, 協力園に内在する遊びの質について, その傾向性をつかむための作業を試みる。学年や期を問わず, 遊びが行われた場ごとの経験の内容を整理した(表 26)。

この結果から, 協力園の園庭の遊びの質については, 年間を通して人間関係の経験に関する内容が最も多く挙げられた。続いて環境, 健康, そして, 表現, 言葉の順となった。これらが導き出された背景として, 協力園の園庭がもつ特性や保育教諭の保育のねらい, 思いや願いが挙げられよう。

表 26 保育教諭がとらえた遊びの場における 5 領域の内容の項目

	健康	人間関係	環境	言葉	表現	項目数と全体の カウント数
D 泥山	(1)1 (2)1 (3)2	(1)1 (2)1 (6)1 (7)4 (8)5(10)1	(1)3 (2)4 (4)3 (7)1 ねらい(1)1	(2)1 (3)1 (8)1	(1)2 ねらい(2)1	19 項目 35
E 砂場	(3)1	(7)1 (8)1	(1)3(2)1(4)1			6 項目 8
DE⑩付近		(8)1	(2)1			2 項目 2
F⑬プランターや花壇		(7)1	(5)1	(2)1		3 項目 3
②③桜の木の下		(1)1	(3)2		(2)1	3 項目 4
②おたまじゃく しシーソー	(2)1 (3)1	(7)1 (10)1 (11)1 (12)1				6 項目 6
④赤いおうち付近	(2)1			(1)1	(3)1	3 項目 3
④付近スピンジム	(2)1 (3)1	(12)1				3 項目 3
⑤冒険の丘		(1)1 (11)1				2 項目 2
⑥わんぱくジャ ングルジム	(2)2 (3)2	(4)1 (8)1 (11)1 (12)1	(7)1			7 項目 9
⑦ネットのおやま	(2)1 (3)1	(12)1				3 項目 3
⑩黄色いおうち付近		(8)1				1 項目 1
AE⑫, E④, A② 植物が生えている 塀や建物やステー ジのそば, A 畑		(1)1 (5)1 (7)3 (8)2 (9)1	(1)2 (3)1 (4)1 (5)2			9 項目 14
①⑬BF 足洗い場 とテラス付近	(3)1 (7)1	(8)1	(1)1 (5)1		(5)1	3 項目 3
⑮鉄棒	(2)1 (3)2	(4)1 (8)1 (12)1	(4)1 (7)1			7 項目 8
園庭全体	(2)7 (3)3	(1)2(2)1(5)3 (8)5 (11)2	(1)1 (3)1 (4)1	(3)1	(3)1 (5)1	13 項目 29
園庭 (直線スペース)	(2)1 ねらい(2)1					
5 領域の内容の項目 番号とその数 [全体のカウント数]	(1)1 (2)16 (3)13 (7)1 [31]	(1)6(2)2(4)2 (5)4(6)1(7)9 (8)18 (9)1 (10)2 (11)5 (12)2 [52]	(1)10 (2)6 (3)4 (4)7 (5)4 (7)3 [34]	(1)1 (2)2 (3)2 (8)1 [6]	(1)2 (2)1 (3)2 (5)2 [7]	29 項目/ 全 53 項目 (5 領域の内容)

また、場の側面から見ると、「泥山」での経験の内容が項目数カウント数ともに最も多く挙げられ、次いで「園庭全体」、「植物の生えている塀やステージ、建物のそば、A畑」、「わんぱくジャングルジム」、「砂場」、「おたまじゃくしシーソー」の順となった。場については明確に分けられない場合に「付近」という表現を使用した。「付近」の詳細は前述した遊びの様子にそれぞれ記載している。

泥山については、感覚遊び、造形遊び、作った物を使用するごっこ遊び、全身を使った遊びなど、遊びの多様な段階や側面で利用できることが要因と考えられる。また、年間を通して使用されており、IV期の積雪時でも、起伏を生かしたそり滑りに使用されていた。単なる泥場ではなく「泥山」であることが経験の幅を広げている。逆に、起伏のないフラットでスペースが確保されている園庭では、集団での鬼ごっこやボール遊び、乗り物遊びなどが展開された。IV期の積雪時には雪遊びが多様な遊び方で展開されている。一方、言葉や表現の経験内容が比較的少なかった点については、前述したように、保育教諭の保育のねらいも関連していると思われるが、園庭に期待する遊びの質の対象ではない、もしくは、協力園の園庭がもつ遊びの質にそぐわない、という見方もできよう。いずれにしても、園庭という場の特性が経験の内容に影響を与えることが見えてきたことは確かであろう。これらの結果を保育現場で生かしていくためには、期毎の経験の内容、発達段階に応じた経験の内容についても概観をつかむことが必要であろう。今回、場における遊びの質の傾向性が見えたことで、今後保育を行う際に指導すべき内容が、一人一人の幼児に、また集団に対して意識できるのではないだろうか。幼児の興味・関心を大切にしながら、幼児の主体的な遊びを支えられるよう、その子にふさわしい経験が可能となるように、今ここでどのようなことを経験しているのだろうか、どのような経験が可能なのだろうか、という視点を常にもちながら、適切な環境の構成、言葉がけなどの援助に努めたい。

園庭環境は園によって様々だが、共通する場においては一面から見れば遊びの質の傾向性が似てくるとも予想される。ただし、前述したように、遊びの質は保育の質と同様、相対的・多様なものであると考えられるため、園庭は各園特有の遊びの質が内在すると考えられる。また、保育教諭によって同じ遊びを見ても同じとらえになるとは限らないため、多様な視点があることも理解しておく必要がある。各園がそれぞれ分析を行い、園庭の各遊び場において、期において、発達段階において、どのような遊びの質が園庭に内在するのか、その傾向性や特徴をつかんでいくこと、それらを踏まえた新たな経験の可能性についても園全体で話し合い、試行錯誤していくことが肝要であろう。さらに、園庭マップ（仮称）のそれぞれの遊び場に遊び方を随時記入し、経験の内容を話し合うなどして、遊びの質の傾向性を一度とらえておく作業も効果的かもしれない。その際、可能性を固定化させないことも重要であろう。

なお、今回の研究では、幼児の人数や気候についての正確な記録は依頼しなかった。また、園庭で各クラスが遊ぶ際のルール等についても聞き取り調査は行っていない。そのため、遊びの内容や質の分析についてはこれらの条件が不足していることを付記しておく。

V まとめと今後の課題

本研究では、協力園において、園庭での幼児の遊びにおける経験の内容を保育教諭の視点から明らかにすることを試みたが、遊びの質を5領域の内容からとらえ、その遊びが行われた場に着

目して考察した結果、幼児教育3年間にわたり指導する事項全53項目の内、29項目をとらえることができた。年間を通して、人間関係の領域の内容を筆頭に、健康、環境の領域にかかわる内容が多く挙げられた。遊び場は17か所に集約され、特に、感覚遊び、造形遊び、作った物を使用するごっこ遊び、全身を使った遊びなどができる泥山付近と、集団で鬼ごっこやボール遊び、雪遊びなどができるスペースが確保された園庭において、内容の項目やカウント数が顕著に表れた。これらの遊び場を中心に様々な遊びが展開され、幼児期に育みたい力が培われていることが示唆された。

繰り返し述べるが、本研究では遊びの質を数値化して評価する意図はなく、協力園の園庭に内在する遊びの質またはその傾向性を探ることを意図している。次の段階として、とらえた遊びの質をどう高めていくかというステップがある。「遊びの質を考える場合、保育者自身が持つ保育観によって同じ遊びであっても、一方は質の高い遊び、他方は質の低い遊びと判断されてしまう可能性がある」とあるように²⁰⁾、質の高さを追及する際は、遊びの中での幼児の内面のとらえ方について、日々学び合うことが必要であろう。

ここで、遊びの質をとらえていくときに、今後考慮する必要がある課題について述べたい。

遊びの事例を整理していると、「〇〇遊び」と遊び名を併記している場合もあった。これは、幼児の遊びの様子をあるカテゴリーでまとめてとらえる、般化して示す、または、当初計画していたカリキュラムの中での遊びであった、など、いずれかの理由であろう。このように、保育教諭の意図性が垣間見えるものや、園庭という自然の影響を受けている特性のある場で予期せず起こったことがランダムに記録に現れ、遊びを中心とした総合的な教育・保育を行う際の、計画的な環境構成や一人一人の特性に応じた指導などを通して、保育教諭の意識や援助が直接的・間接的に働いているようすが伝わってきた。

また、記録を転記していると、保育教諭によって、項目の選定のしやすさ、記載のしやすさに傾向があるのではないかと感じた事例がいくつもあった。例えば3歳児は、遊びにおいて保育教諭自身が関係することが多いため、人間関係の領域における経験の項目を意識しやすく自信をもって記録できるように感じた。記録用紙には内容の番号を選び記入する形をとったが、4歳児では、時折ねらいの項目番号が記載されていた。内容よりも選定しやすい表現だったからか、遊びを通した指導をねらいでとらえる習慣があったからか、もしくは、ねらいと内容についての研究者の説明不足であった可能性もあると推察する。

次に、経験の内容に関しての記載の傾向性が見え隠れした点について述べたい。3,4歳児では、道具や材料を複数使っている遊びでも、道具の経験[環(7)]を挙げていない記録が多くみられた。その事例では、自然に触れる、人との関わりを楽しむといった経験の内容を挙げていることが多いことから、3,4歳児では、その子の育ちでその時に一番気になっている、もしくは必要であると思った内容が人間関係の領域であり、環境の領域においても道具についての経験より自然に親しむ経験を重視している傾向があるのではないかと考える。

ここで、遊具を使用した遊びについても留意すべき点があることに触れておきたい。単に、「ジャングルジム」と言っても、のぼり棒や網で登れる、また、中が隠れ家になっている総合遊具のような協力園のジャングルジムでは、より複雑な遊び方が可能になるため、「試行錯誤」「工夫」という経験の内容を挙げて、その遊具のどの部分をどのように使用するかによって「経験の程度」が違ってくることが予想される。わんぱくジャングルジムは固定遊具の中でも比較的経験の内容が

多く挙げられたことから、固定遊具の複雑性、多様性が幼児の遊びに経験の多様性とスモールステップにおける経験を提供できるのではないかと推察する。

さらに、行事に関連する、もしくは行事に影響を受ける遊びについての事例も挙げられていた。自由な遊びの時間において、運動会の後にかけてっこをして楽しむ姿があり、遊びは行事と連動していることが実際に確認された。中でも5歳児の遊びの記述には、かけっこや鉄棒など、教育・保育カリキュラムに計画されていたであろう活動も見受けられたが、幼児が進んで行っている様子遊びととらえて記録していることがうかがえた。

そして、生活との関連で遊びをとらえた事例もあった。夏野菜を育てる、という記載をした保育教諭がいたが、子どもの心もちとしての遊びとしてとらえているようだった。実際には、6～8月〔Ⅱ期〕において、4歳児と5歳児と一緒に夏野菜の苗を植え、5歳児が月に1回程度観察し、収穫時は一緒に植えた仲間と食べる、という園のカリキュラムに位置付けられた活動のようである。また、多くの園が実施している夕涼み会だが、当園では7月下旬の夕刻に園庭を使用し、親子で踊ったりゲームをしたり出店でバザーが行われたりする。この内容も遊びとして挙がっていた。子どもの豊かな経験や育ちを考えた時に、午前中の自由な遊びの時間とは別に、季節ごとの園庭での家庭や地域とのつながりのある活動などのように、特別な潤いを与えるいつもとは違った環境の中での自由感あふれる遊びについても、5領域に関する教育的な側面につながっていることは経験的に明らかである。これらのことから、「遊びとは何か」についての、保育教諭それぞれのとらえ方が経験の内容の選定の仕方に差を生じさせることにつながることも理解しておく必要がある。

最後に、遊びの段階や履歴についても述べておきたい。例えば、4歳児の10～11月の記録では、泥遊びで作る楽しさを味わった翌日、場所を変えてごっこ遊びに展開している事例が記録されていた。同じ遊び方でも場を変えることで経験できる内容の変化に傾向性はあるのか、5歳児においても、7月の水鉄砲の遊びは3回目であったが、遊びの履歴によって経験する内容の変化に何らかの傾向があるのか等、幼児の遊びを継続してとらえ、流れの中での遊びの質を検討し、意識することで、園庭での遊びの質の可能性についてより見通しをもって保育できるようになるのではないだろうか。

このように、遊びの質をとらえる、評価する、と言っても、保育教諭の遊びについてのとらえ方、経験の内容の選定の傾向性、幼児の生活、園のカリキュラム、遊びの段階や履歴などが影響し合っていることが考えられる。そのため、見える部分の評価とそのように評価するに至った様々な要因との複雑な関係についても意識しておく必要がある。

いずれにしても、今回の研究において、保育教諭が様々な方法を駆使し、考え、奮闘し、幼児が遊びを通して園庭の環境にかかわっていけるよう保育している様子がよく伝わってきた。幼児の生き生きとした姿や、保育教諭と共に過ごす美しい映像が目には浮かび、思わず微笑んでしまうような記録もたくさんあった。日々多忙な保育教諭の協力を得て、園庭で経験されている内容が保育教諭の視点からわずかながら明らかになった。この結果を受けて、今度は別の視点から協力園の園庭での遊びと経験の内容について分析を続けたい。具体的には、研究者が協力園にて本研究と同時期の5, 7, 11, 2月に園庭での遊びの様子を1時間程度ビデオ記録したデータを、研究者側から同じように分析し、そこから得られた結果と本研究の結果を照らし合わせて整理する。また、平成30年に

実施した全国の認定こども園 115 園の質問紙調査の結果とも併せて、幼児期における遊びの質を保障する園庭環境の評価規準について整理していきたい。

「成果目標を数値目標として具体化し計測しようとするれば、それは目標の『精密化』，すなわち細分化・多項目化が避けられない。そうした『精密化』は、子どもの経験の意味を子どもの視点から理解しようとする視点と力を実践者からはぎ取っていく²¹⁾ ことのないよう、保育教諭の遊びに関する保育の質、保育者養成の質の向上へと歩みを続けたい。

引用文献

- 1) 発達保育実践政策学センター (2018) 園庭に関する調査保育・幼児教育施設の園庭に関する調査報告. <http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/download/園庭に関する調査《解説》> (2019.2.26 情報取得)
- 2) 発達保育実践政策学センター. 園庭・地域環境での保育／子どもの遊び観 研究プロジェクト. http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/projects_ongoing/entei/ [宮本雄太・秋田喜代美・辻谷真知子・宮田まり子 (2016) 幼児の遊び場の認識：幼児による写真投影法を用いて. 乳幼児教育学研究. 第 25 号.9-21] (2019.2.26 情報取得)
- 3) 秋田喜代美 (2017) 「保育の質とは何か」 (視点・論点) .NHK 解説委員会. <http://www.nhk.or.jp/kaisetsu-blog/400/276807.html>, 一欧米における「保育の質」概究の到達点 (2) — [OECD (2006) Starting Strong II : Early Childhood Education and Care. OECD Publishing.] (2019.2.26 情報取得)
- 4) 質.goo 辞典 (2019.2.27 情報取得)
- 5) 厚生労働省. 保育所等における保育の質の確保・向上に係る関連資料. 保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会 (第 6 回) (2018.9.26 資料.2) <https://www.mhlw.go.jp/content/11907000/000360397.pdf> (2019.2.27 情報取得)
- 6) 秋田喜代美・箕輪潤子・高櫻綾子 (2007) 保育の質研究の展望と課題. 東京大学大学院教育学研究科紀要. 第 47 巻.290
- 7) 秋田喜代美・佐川早季子 (2011) 保育の質に関する縦断研究の展望. 東京大学大学院教育学研究科紀要 / 東京大学大学院教育学研究科編.51. 217-234
- 8) OECD (2015) 人生の始まりを力強く IV—幼児教育・保育の質をモニターする (Starting strong IV: Monitoring quality in early childhood education and care)
- 9) 増田吹子・堂原洋子 (2017) 保育の質を向上させる保育内容についての検討. 鹿児島純心女子短期大学研究紀要, 第 47 号, 85
- 10) 国立教育政策研究所 (2017) . 幼小接続期の育ち・学びと幼児教育の質に関する研究. 平成 27 ~28 年度プロジェクト研究報告書.1-196
- 11) 大宮勇雄 (2006) 保育の質を高める. ひとなる書房.20
- 12) 河邊貴子 (2014) 幼児教育に求められる「遊びの質」とは何か. これからの幼児教育第 1 特集. ベネッセ教育総合研究所.2
- 13) 大宮勇雄・河邊貴子・児嶋雅典・原孝成・若月芳浩 (2014) 遊びの質をどう捉えるか. 「保育学研究」第 52 巻第 3 号. 課題研究委員会報告.117
- 14) 中坪史典・上松由美子・朴恩美・山元隆春・財満由美子・林よしえ・松本信吾・落合さゆり (2010) 遊びの質を高めるための保育者の援助に関する研究—幼児の「夢中度」に着目した保育カンファレンスの検討. 広島大学学部・附属学校共同研究紀要 38 号.105-110
- 15) 浅木尚実 (2016) . 幼児教育・保育の質的向上における「遊び」についての考察. 淑徳大学短期大学部研究紀要. 第 55 号.44
- 16) 山下京子 (2018) 保育の質と保育者養成に関する研究. 広島女学院大学幼児教育心理学科研究紀要. 第 4 号.10 [秋田喜代美・箕輪潤子・高櫻綾子 (2008) 保育の質研究の展望と課題. 東京大学大学院教育学研究科紀要, 47, 289-305]

-
- 17) 同上.12
 - 18) 内田千春・無藤隆 (2016) 幼児教育のエビデンスと政策 (3) 幼児が育つ環境をつくる——
幼児教育の質とは.ちとせプレス <http://chitosepress.com/2016/01/12/991/> (2019.3.18 情報取得)
 - 19) 前掲 13).114.115.117
 - 20) 前掲 13).114
 - 21) 前掲 13).109

※本研究は、「認定こども園における遊びの質を保障する園庭環境評価規準(幼児版)の試案作成」に迫るために、科学研究費助成事業(15K01778)の助成を受けて行った研究の一部である。

謝辞

研究にご協力くださいました幼保連携型同朋認定こども園の子どもたち, 保護者の方々, 蜷川徳子理事長先生はじめ園の教職員の皆様方に心より感謝申し上げます。なお, 今後の子どもたちの健やかな成長を心よりお祈り申し上げます。